

そうず 寒水地区「赤堂」再建 —災害流木による仏像制作

科研 B：災害後の森林環境と人間の関係性を再生する芸術文化的実践—英彦山分水嶺を中心に—

(九州大学芸術工学研究院教授 知足(ともたり)美加子)

2025 年度
進行中の
プロジェクト



知足美加子《寒水大師と十一面観音(災害流木)》2020 年



杉岡製材所による流木採取

朝倉地域は 2017 年、2018 年、2023 年とくり返し豪雨災害に見舞われました。**寒水(そうず)** 地区は甚大な被害に見舞われつつ死者をだしませんでした。しかし再建した家屋が再び被災し、離村せざるをえない方々もおられるといひます。地域の方々の「災害で流れた**赤堂再建の願い**」を受け、**災害流木のヒノキで仏像を復原**しました。2025 年度中に予定されている「開眼式」には、災害被災木でつくった楽器演奏(カリンバ、バイオリン)を披露できるよう準備をすすめています。



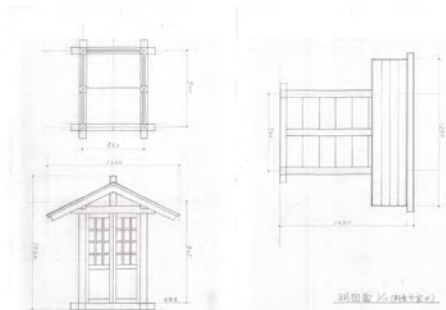
災害直後の寒水(2017 年)



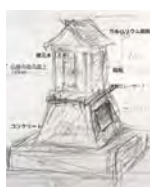
満生(前)寒水区長による説明



災害前の赤堂



大工池上算規による設計図



新赤堂イメージ図



カリンバ



バイオリン(林震煌)